



成長への環 つながりの和 地域との輪  
稲付中学校だより～自律と自立～

NO. 7

令和7年11月1日

校長 名取 秀康

### 修学旅行に行ってきました。

#### ～日本の伝統芸能「能」を鑑賞して考える「寄り添う」とは～

校長 名取 秀康

令和7年10月13日～15日まで修学旅行（奈良・京都）に行ってきました。生徒実行委員会が考えたスローガンは『楽学両道』です。文字通り「楽しむこと」と「学ぶこと」の両方を大切にすることです。中学校生活最後の宿泊行事をみんなで楽しみたいという思いとこれまで学んできた京都・奈良について実際に自分の目で見て学んでほしいとの思いが込められていました。修学旅行について動き始める前に生徒実行委員会が校長室に来て語ってくれました。とても立派なスローガンだと思いました。

さて、今回の修学旅行では私たち教員もたくさんの学びがありました。2日目の夜、「能楽体験鑑賞講座」に参加しました。「能」とは室町時代に成立し、600年を超える歴史の中で独自の形を磨き上げてきた日本の代表的な古典芸能です。その特徴を一言で述べれば、「面（おもて）と装束（しょうぞく）を用い、専用の舞台で演じられる歌舞劇」となるそうです。

能で使う「面（おもて）」は無表情のように見えますが、演者が顔の角度を変えることによって喜怒哀楽を表現しているようです。例えば、演者が下を向くと暗い悲しい表情に、上を向くことで明るい笑顔に見えるそうです。しかし、実際の「面」には目のあたりに小さな穴があるだけです。演者は非常に視野の狭い状況で演じているのでお客さんがどんな反応をしているのかわからないといいます。だからこそ、演者は常に冷静に、そして、俯瞰して自分自身の演技を見て、その上でお客様の反応を心で感じなくてはならないようです。（その道で極めた方ならではのことですね）

私は校長として教職員には「常に生徒の近くで見守り、生徒の気持ちに寄り添えるように」と伝えています。能の鑑賞を通して、目で見て、耳で聞いた情報だけでなく、能の演者のように生徒の気持ちを心で感じ共感することで初めて寄り添うことができるのではないかと改めて思いました。私たち教職員も教育の道を極めるために常に精進してまいります。

#### <11月主な行事>

1	土	土曜授業	17	月	全校朝礼・安全指導日
7	金	定期考査Ⅱ（始）	21	金	デフリンピック観戦（1年）5組校外学習
10	月	定期考査Ⅱ（1・2年終）	23	祝	稲付中同窓会
11	火	定期考査Ⅱ（3年終）	26	水	職場体験（2年、3年5組）
13	木	領域診断テスト（3年）	28	金	職場体験（終）1年校外学習

